

# 「健康介護相談薬局推進事業」 結果報告

- ・薬局に関する地域住民へのアンケート
- ・健康サポート薬局に関するアンケート

埼玉県保健医療部薬務課

1

## 第1 背景・目的

- 厚生労働省が「健康サポート薬局のあり方について」を公表
- 健康サポート薬局には、患者が医薬分業のメリットを十分に感じられるようにするため、日頃から患者と継続的に関わり信頼関係を構築し、薬のことについて、いつでも気軽に相談できる『かかりつけ薬剤師』がいることが重要

2

# 第1 背景・目的

- (1) 地域住民が薬局に期待することを顕在化し、取り組むべきことに優先順位をつけるため、地域住民を対象にアンケート調査を実施
- (2) 現時点での各薬局の健康サポート薬局への取り組みの状況を把握して課題を明らかにするため、埼玉県内の薬局を対象にアンケート調査を実施

3

# 第2 方法

- (1) 薬局に関する地域住民へのアンケート調査
  - 調査対象 健康まつり等のイベント会場において薬剤師が参加住民に直接記載を依頼  
(22会場・延べ15日間)
  - 実施地区(9地区) さいたま市、朝霞地区、桶川地区、春日部地区、川越地区、行田地区、熊谷地区、本庄・児玉地区、寄居地区
  - 調査時期 平成27年9月～12月
- (2) 健康サポート薬局に関する薬局へのアンケート調査
  - 調査対象 埼玉県薬剤師会会員薬局 1,842薬局
  - 調査期間 平成27年12月1日～12月28日

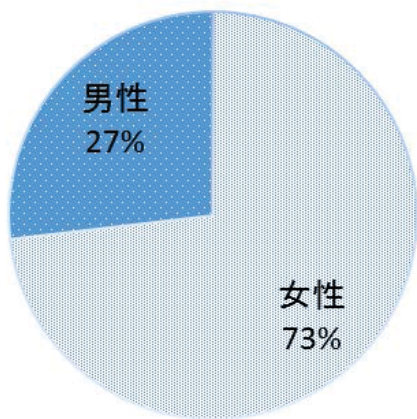
4

# 第3 結果

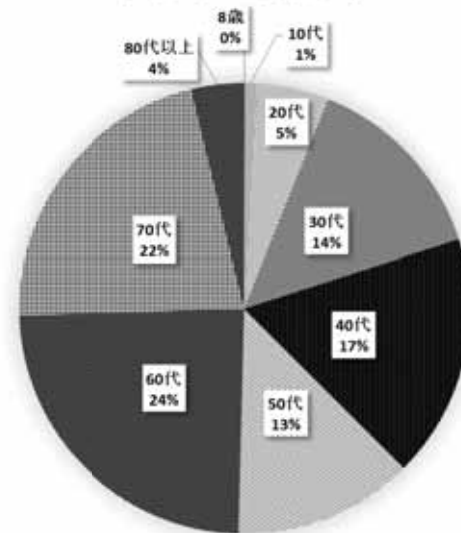
## 1 薬局に関する地域住民へのアンケート調査

(ア) 回答者の属性 回答者数 1,512人

回答者の性別



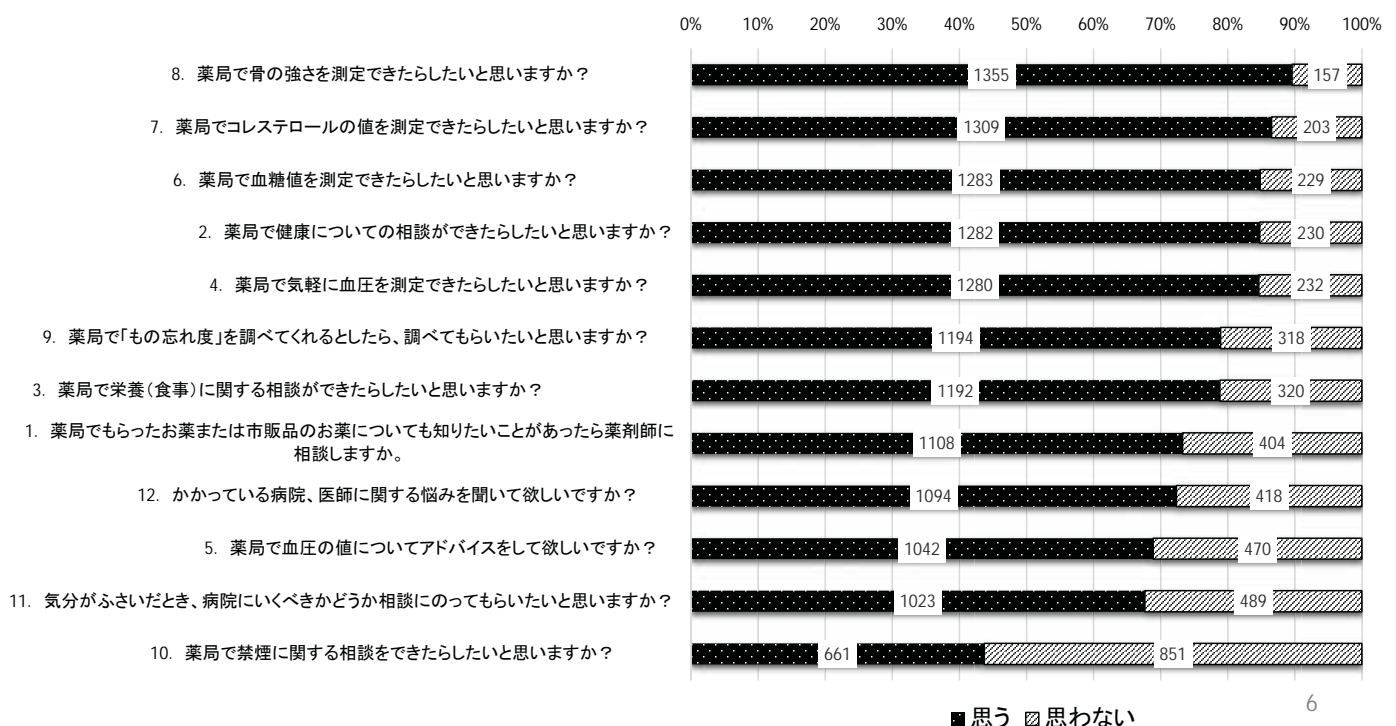
回答者の年齢分布



# 第3 結果

## 1 薬局に関する地域住民へのアンケート調査

(イ) 薬局に求めるサービス 回答者数 1,512人



# 第3 結果

## 1 薬局に関する地域住民へのアンケート調査

(イ) 薬局に求めるサービス 回答者数 1,512人

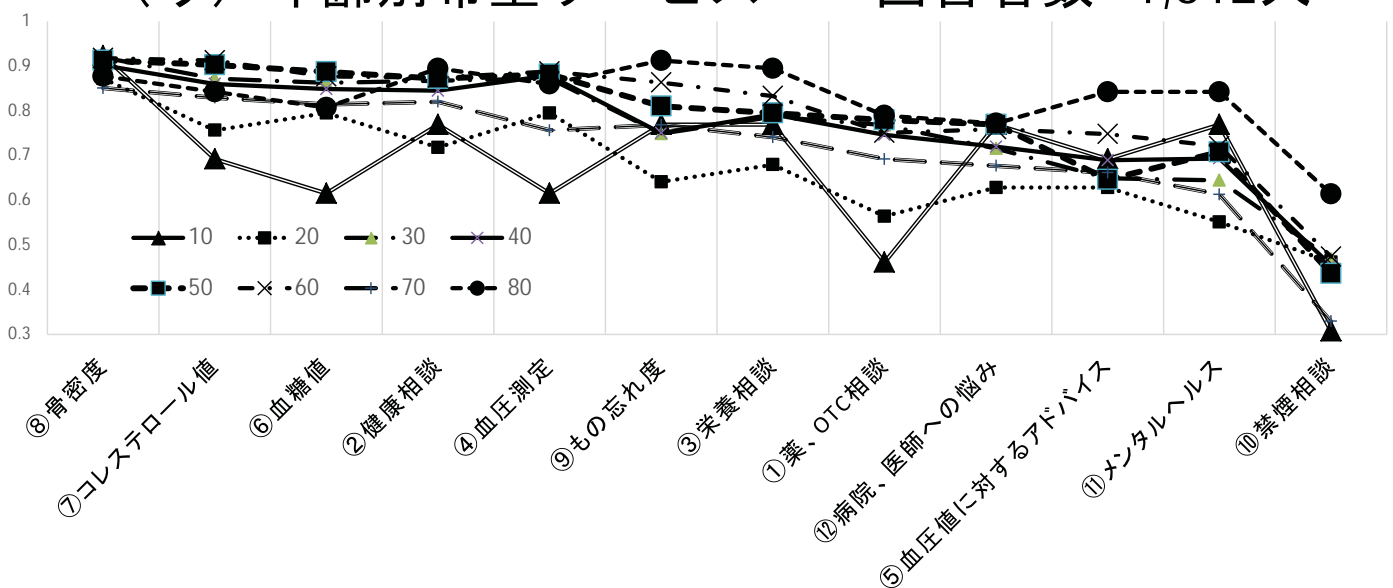
- 薬局に求めているサービスで最も高い値を示したのは「骨の強さの測定」であり、回答者の1,355人(89.6%)が測定を希望していた。
- その他、希望する人数が多い順に「コレステロールの値の測定」、「血糖値の測定」、「健康についての相談」、「血圧の測定」、「もの忘れ度」のチェック」であった。

7

# 第3 結果

## 1 薬局に関する地域住民へのアンケート調査

(ウ) 年齢別希望サービス 回答者数 1,512人



80歳以上は他の年代に比べて多くのサービスを希望していた。

10代、20代は他の年代に比べサービスを希望する割合が小さかった。

年代が高くなるにしたがい各サービスを希望する割合は高くなる傾向にあるが70代のみ下がっていた。

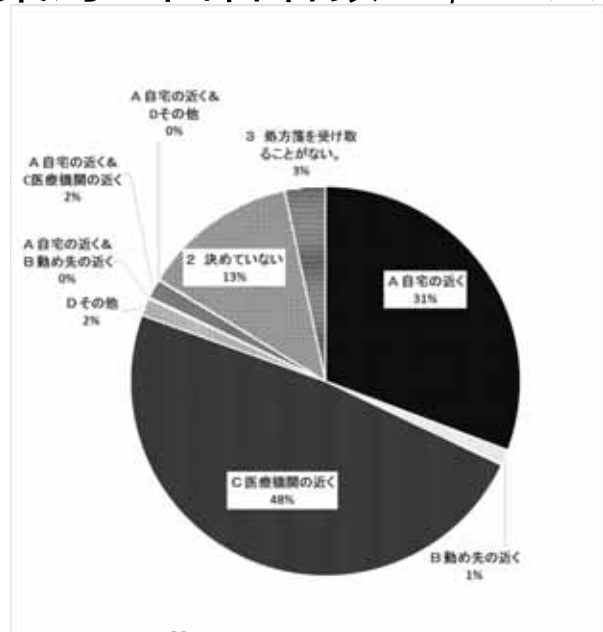
8

## 第3 結果

### 1 薬局に関する地域住民へのアンケート調査

(エ) 処方箋を持参する薬局 回答者数 1,512人

| 処方せんを持参する薬局        | 人数(人) |
|--------------------|-------|
| 1 決めている            | 1,266 |
| (1) 処方箋を持参する薬局は1か所 | 1,239 |
| A 自宅の近く            | 465   |
| B 勤め先の近く           | 20    |
| C 医療機関の近く          | 732   |
| D その他              | 22    |
| (2) 処方箋を持参する薬局は複数  | 27    |
| A 自宅の近く&B 勤め先の近く   | 2     |
| A 自宅の近く&C 医療機関の近く  | 24    |
| A 自宅の近く&D その他      | 1     |
| 2 決めていない           | 195   |
| 3 処方箋を受け取ることがない。   | 51    |



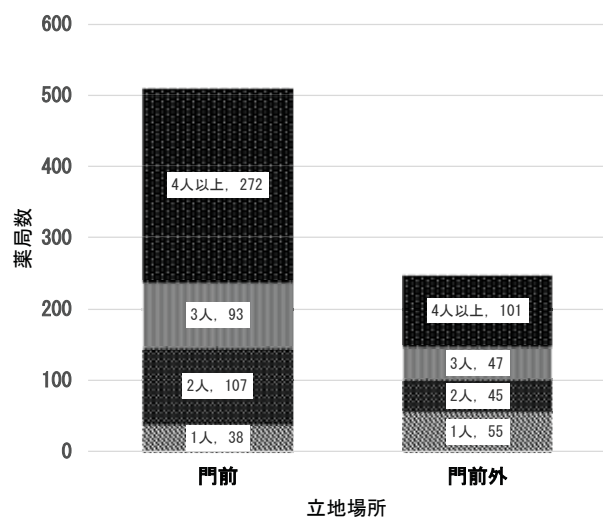
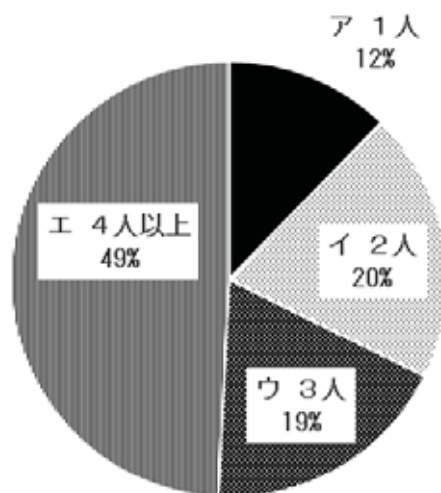
全体の回答者の83.7%の人が処方せんを持参する薬局を決めていた。医療機関の近くが48%、自宅の近くが31%であり、勤め先の近くは1%と少数であった。また、回答者の13%が薬局を決めていなかった。

## 第3 結果

### 2 健康サポート薬局へのアンケート調査

回収できたアンケートは923薬局（回収率50.1%）で、有効回答数は758薬局（41.2%）であった

(ア) 薬局に従事する薬剤師の人数



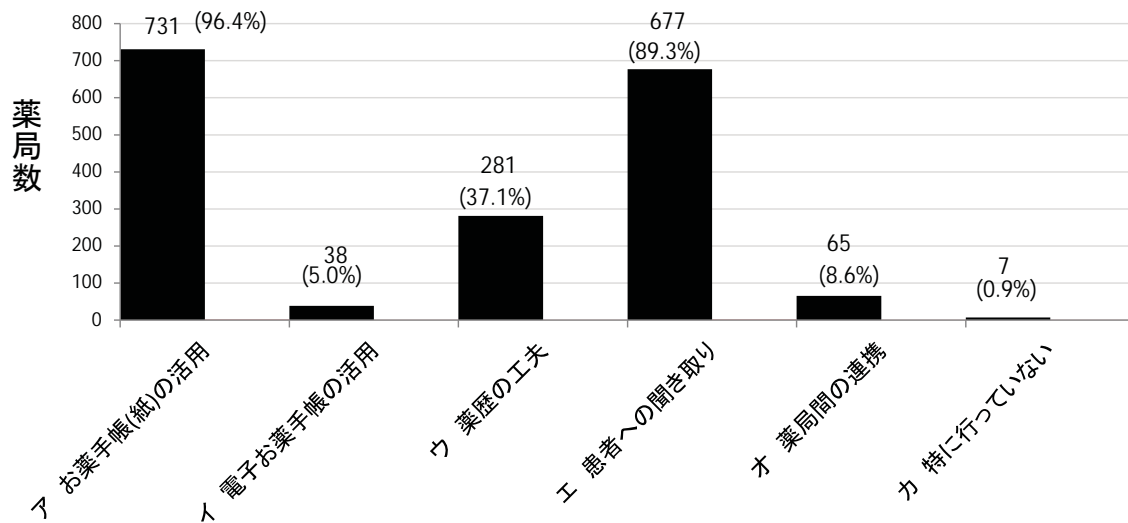
薬剤師1人が93薬局、2人が152薬局、3人が140薬局、4人以上が373薬局であった。約半数の薬局が4人以上従事していた。

「門前薬局」では4人以上の薬剤師がいる割合が「門前外薬局」と比較して多かった。

## 第3 結果

### 2 健康サポート薬局へのアンケート調査

#### (イ) 薬局の処方薬把握のためのツール



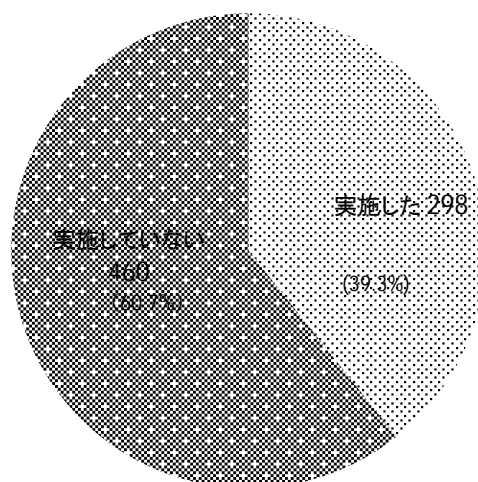
患者の処方薬の把握については「お薬手帳(紙)の活用」が731薬局(96.4%)と最も多かった。次に多かったのは「患者への聞き取り」が677薬局(89.3%)であった。「薬局間の連携」、「電子お薬手帳の活用」の回答は10%以下であった。「特に行っていない」施設も7薬局あった。

11

## 第3 結果

### 2 健康サポート薬局へのアンケート調査

#### (ウ) 在宅療養患者宅での服薬支援



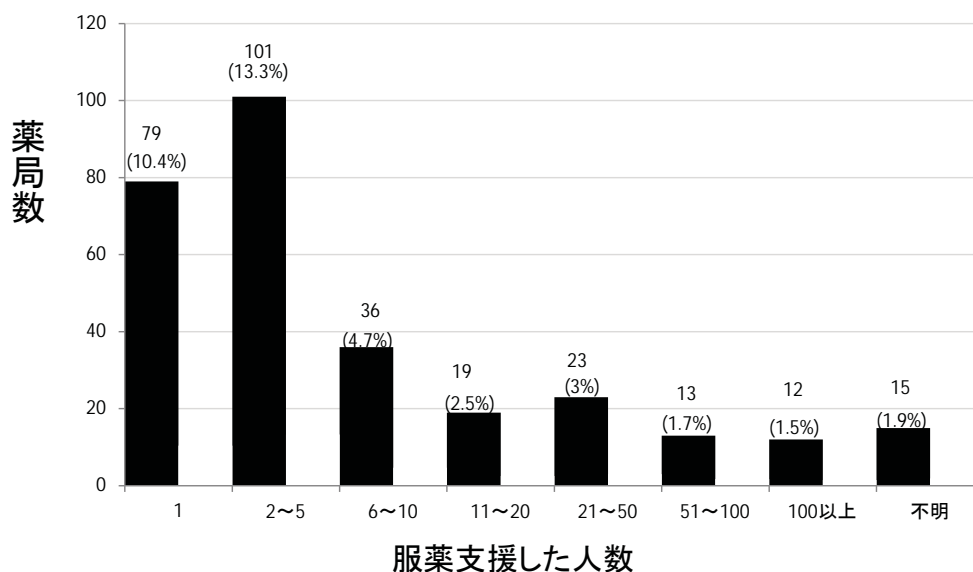
在宅療養患者への服薬支援では、「実施した」が298薬局(39.3%)、「実施していない」が460薬局(60.7%)であった。

12

## 第3 結果

### 2 健康サポート薬局へのアンケート調査

#### (エ) 在宅療養患者宅での服薬支援



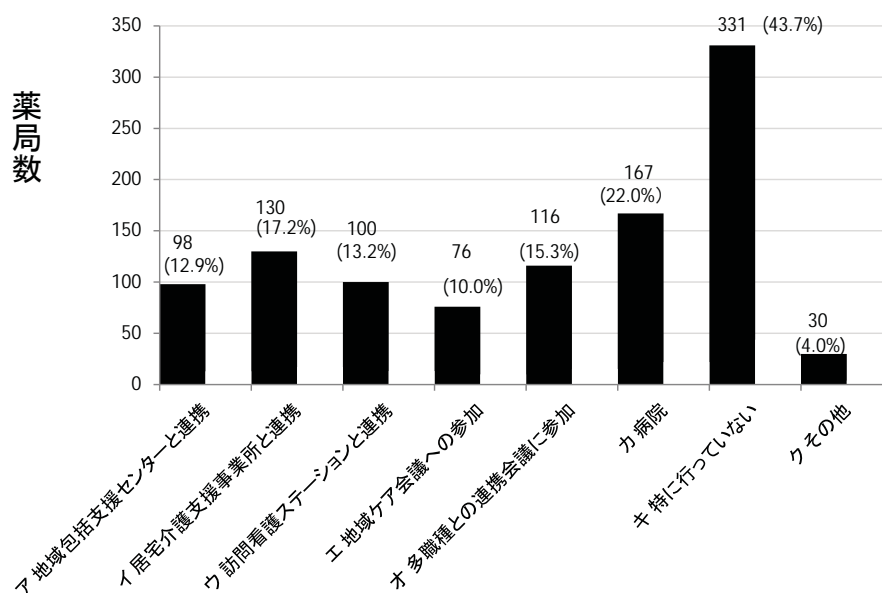
在宅療養患者の服薬を支援した薬局のうち、支援人数5人以下の薬局数が60%を占めていた。

13

## 第3 結果

### 2 健康サポート薬局へのアンケート調査

#### (オ) 他職種との連携



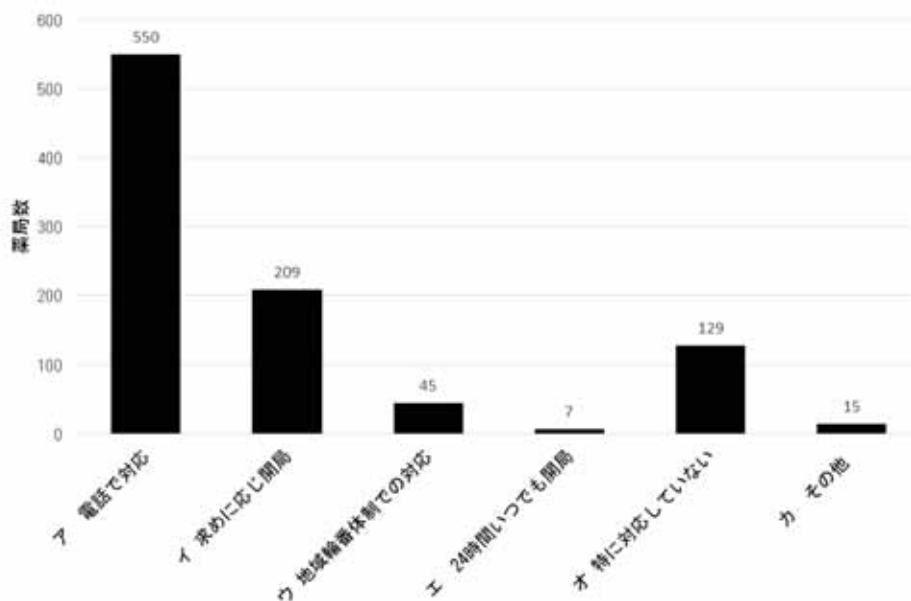
他職種連携では、331薬局で特に連携を図っていなかった。連携の多かった順に「病院」、「居宅介護支援事業所と連携」、「多職種との連携会議に参加」、「訪問看護ステーションと連携」であった。

14

## 第3 結果

### 2 健康サポート薬局へのアンケート調査

#### (カ) 開局時間以外の相談対応状況



開局時間以外の相談の対応状況で、最も多かったのは「電話で対応」であり、以下多い順に「求めに応じ開局」、「地域輪番体制での対応」、「24時間いつでも開局」の順であった。また、「特に対応していない」が129薬局あった。

15

## 第4 考察

### 1 薬局に関する地域住民へのアンケート調査について

- 薬局に求めるサービスでは、骨の強さ、血圧測定など測定に関する項目が多く、各薬局で前向きに取り組むべきである。
- 薬局への相談内容については、「健康についての相談」、「栄養(食事)に関する相談」、「もらった薬、市販品のくすりの相談」の順に多かったが、認知症及びメンタルヘルスに関する相談のニーズも多かった。
- 回答者の約84%が処方せんを持参する薬局を決めており、その半数以上が医療機関の近くを利用していた。いわゆる「門前薬局」においても地域住民のニーズに応じて取り組むことが求められている。



## 第4 考察

### 2 健康サポート薬局に関する薬局へのアンケート調査について

- 薬剤師の人数を調査した結果、2人以下の薬局が回答した薬局の32%であった。これらの薬局が単独で健康サポート薬局に取り組むには時間も労力もかなり必要であると考えられる。
- 処方薬の把握については、ほとんどの薬局がお薬手帳を利用していた。お薬手帳が普及してきた証左である。
- 回答のあった薬局の40%近くの薬局が患者宅を訪問していた。別途、実施した「薬の飲み残し対策事業」の成果があらわれていると思われる。  
しかし、患者宅を訪問している薬局の60%が1年間で5人以下の患者宅しか訪問していないという不十分な状況も見受けられる。